

夢のつばさプロジェクト

2016年冬キャンプ 学生報告書

【実施期限】 2016年12月23日（金）～26日（月）

【開催地】（株）ブリヂストン保養所 奥多摩園（青梅市）

【参加者】 子ども：25名（小学生13名、中学生9名、高校生3名）

学生スタッフ：44名（途中入れ替わり含む）

社会人スタッフ／協力者：18名（同上）

◆2016冬キャンプについて

東日本大震災直後からはじまった本プロジェクトですが、3泊4日のキャンプも今回で無事12回目を迎えることができました。今回はおなじみの顔ぶれだけでなく、初めて参加してくれた子どもが3名と約2年ぶりに参加してくれた子どもが2名おり、賑やかな4日間となりました。キャンプの企画内容や子どもたちの様子を以下にご報告いたします。

◆スケジュール・概要

	1日目 (12/23)	2日目 (12/24)	3日目 (12/25)	4日目 (12/26)
午前	送迎	“バ”ガキ作り (第1部)	“バ”ガキ作り (第2部)	閉会式
		キャンドル ツリー作り		
午後	開会式	クリスマス パーティー	オリエンテーリング	送迎
	アイスブレイク			
夜		音楽会		

1日目

初日は新幹線が強風で遅延したため、1時間遅れてのキャンプの幕開けとなりました。長時間新幹線内で待つことになり、疲れた様子の子どものもいましたが、奥多摩園の入り口で出迎えている学生に会えた瞬間、表情がみるみる明るくなるのが見て取れました。

◇開会式

開会式では、キャンプ中にひとつでも多くの“がんばったこと”を見つけて欲しいという学生の思いを込め、視覚探索絵本になぞらえて「ミッケ!」というテーマを発表しました。ただただ楽しくて面白いだけのキャンプではなく、子どもの自信に繋がるような“がんばったこと”を、周りの学生とともに「ミッケ」する4日間が始まりました。



◇アイスブレイク

今回のアイスブレイクは、ペア同士で共通点を探す「共通点探し」、絡んだ手をほどいて円に戻る「人間知恵の輪」、学生の顔写真で神経衰弱をする「WANTED!!」の3つのゲームを用意しました。いつも参加してくれている子ども同士でも意外な共通点を見つけることができ、また新しく参加した子どもも少しずつ緊張が溶け、キャンプの雰囲気に馴染んでくれているようでした。

2日目

2日目は4つの企画を行ったため、少々窮屈なスケジュールになったかと心配しましたが、子どもたちは体力と集中力を維持して企画に参加し、成長を感じさせてくれました。

◇パガキ作り（第1部）

牛乳パックからはがきを作る“パ”ガキ作りは、2日目と3日目の2回に分けて行いました。第1部は、前日の夜からお湯に浸しておいた牛乳パックをちぎる作業から始まりました。そのちぎったパルプを今度はミキサーにかけ液状にし、紙すきではがきの形にしました。ドロドロとしたパルプに恐る恐る触れて「意外と気持ちいい!」と発見する子どもや、紙すきのコツを掴んで得意げな表情の子どももいて、子どもそれぞれが思い思いにはがきを作っていました。



◇キャンドルツリー作り

前回の夏キャンプで、夢のつばさハウス作りをご指導くださった東京電機大学の岩城和哉先生に、冬はクリスマスツリーを作りたいとご相談したところ、木材を使ったキャンドルツリーを子どもたちと組立ててクリスマスツリーにしてはどうかという提案をいただきました。今回、子どもたちと取り組んだところ、木材を運んだりボルトを締めたり、作業に率先して取り組む子どもが何人も出て、たいへん楽しい企画となりました。みんな少し高い位置でもツリーの棚によじ登ったりしてがんばっていました。ツリーの骨組みには先生方



にLEDライトをつけていただき、クリスマス会中に点灯式を行いました。暗い室内でライトアップされると、子どももスタッフもみな「わあ！すごい！」「きれいだね！」と口々に言って興奮していました。

◇クリスマス会

今回のクリスマス会は、室内の飾りつけからパーティー中の司会まで子どもたちを中心に進め、楽しいクリスマスパーティーを作り上げました。バルーンアートやクッキーのアイシング、コットンボールランプなどそれぞれがクリスマスパーティーを盛り上げるためにがんばっていました。司会を努めてくれた小学生女子2人の棒読みな掛け合いが逆に面白く、みんなが和んでいました。そしてパーティー中はビンゴ大会も開催し、ビンゴが当たった子どもは嬉しそうに学生が用意した景品を受け取っていました。

夜ご飯の時間にはサンタさんも登場して、子ども一人ひとりがサンタさんから直接プレゼントをもらうことができました。

◇音楽会

クリスマスイヴの夜は音楽会で締めくくりました。今回はフルート演奏者の武田真衣さま、ソプラノ歌手の高藤真理子さま、マリンバ演奏者の岩崎りえさま、3名の音楽家にお越しいただき、クリスマスに因んだ楽曲で素晴らしい時を過ごしました。また木琴の一種であるマリンバでは「熊蜂の飛行」という曲を演奏してください、子どもたちもその軽快で独特な楽器の音に聴き入っていました。そして「きよしこのよる」を全員で歌いクリスマス気分を存分に味わった後、恒例の「つばさをください」を輪になって歌いました。最後の2曲は高校3年生の男子もフルートで急きょ加わり、素敵な演奏を披露してくれました。



3日目

◇パガキ作り（第2部）

はがきを乾かすため一晩おいたのち、学生と子どもでお互いにはがきを書いて、世界に1枚しかないオリジナルはがきを送りあいました。学生のために一生懸命はがきをデコレーションする子どもや、少し照れくさそうに「ありがとう」と書かれた手紙を学生に渡す子どももいて、とても心温まる企画になりました。



◇オリエンテーリング

この企画は、キャンプで毎回お世話になっている奥多摩園全体をもっと知ろうという目的で企画しました。夢のつばさのキャンプでは珍しく同年代別でチームを編成し、チームごとに奥多摩園を隅々まで探

検しながらミッションポイントでミニゲームに挑戦しました。奥多摩園の敷地内にある滝から、今まで行く機会がなかったミニゴルフ場の端まで見て回ることができ、すべてのミッションをクリアしたときには子どもたちは達成感に満ち溢れていました。

4日目

あっという間にキャンプ最終日を迎えました。別れを惜しんで「今度は春に会おうね!」「次の夏キャンプ早く来ーい!」と言う子どもの声があちらこちらで聞こえ、とても嬉しく思いました。

◇閉会式

閉会式では、学生から子どもへのメッセージカードを送りました。一緒に4日間過ごした学生がどんなことを書いたのか嬉しそうに読んでいる子がたくさんいました。その後、キャンプ初日から3日目までの思い出がぎっしり詰まったスライドショーを鑑賞し、今回のキャンプテーマ「ミッケ!」の振り返りをしました。“苦手なイカとおからとトマトを全部食べることができた”“今まであまり話したことがない〇〇ちゃんと話してみたら意外と仲良くなれた”“トランプで負けても我慢できた”“みんなが卓球で遊べるように順番待ちリストを作った”など様々ながんばったことを「ミッケ」することができました。



◆冬キャンプを終えて

冬キャンプの時期は、各大学、まだ授業が終わらなかつたり試験があつたりして、準備も参加もとてもたいへんです。でもなぜ夢のつばさプロジェクトの一員として頑張ることができるのかと考えると、答えはいつも一つで、「子どもたちのため」という言葉に尽きます。しかしながら、今回の冬キャンプを経て気づいたのは、私が子どもたちを支えているよりも、遥かに、私自身が子どもたちに勇気づけられ、励まされているということです。「子どもは学生のことみんな『すげえ』って思ってるよ?!」「キャンプをしきってくれてありがとう!」など、こういう子どもたちからの言葉ひとつひとつに私自身が支えられていることを、身をもって実感しました。これからも彼ら・彼女ら一人一人と真摯に向き合い、楽しいことも嬉しいことも、辛いことも悩んでいることも共有できるよう学生一同精進してまいります。子どもたちが私たちに与えてくれている以上に大きな愛をもって、子どもたちに一層寄り添いたいと思います。

最後になりましたが、キャンプ当日を無事迎え、何事もなく終わることができましたのは、一緒に活動いただいている社会人スタッフの皆さまやブリヂストンの皆さま、そして平素より見守ってくださる皆さまのお蔭でございます。心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援を、よろしくお願い申し上げます。

大学生ボランティア代表 お茶の水女子大学2年 山本瑛子